

ワークショップを通して考えたオフィスレイアウトをもとに、今後、一部でオフィス改革を実施する予定です。

※イラスト：前原茉莉子さん(同大学院2年生)

【フリーアドレス】

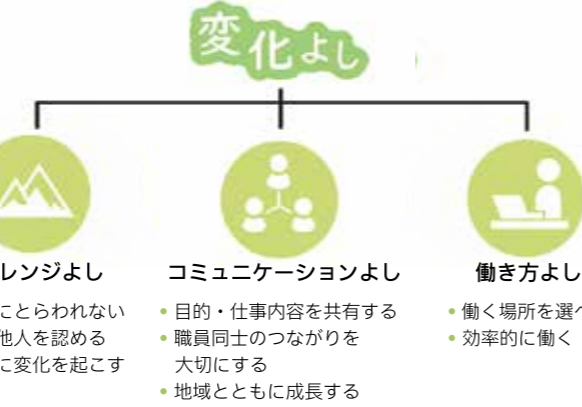


働く席を選べることで、コミュニケーションが増え、新しいアイデアが生まれやすくなります。縦割り意識も薄れます。

【打ち合わせスペース】



生まれたアイデアを素早くみんなで共有します。



【集中スペース】



事務作業に集中して取り組むスペースを設けます。

何が起こるか分からない現代社会。正解がない課題。魅力あるまちにしていけるためには、職員の「意識」と「働き方」の変革が必要です。

脱・「これまで」

近江八幡市役所は、「これからの働き方」に挑戦します。

問 行政経営改革室 TEL(36)5599・FAX(32)2695

本市では新庁舎整備に合わせ、ハード・ソフトともに新しい市役所に変革するべく、京都工芸繊維大学の仲隆介教授やゼミの学生、(株)イトーキ関西支社と一緒に、「市民サービス向上のための働き方」「そのための働く環境(オフィスレイアウト)」を検討しました。

研修会



前例踏襲主義からの脱却など、職員の意識改革を目的とした研修会や、若手職員による「これからの働き方に挑戦するワークショップ」を行いました。

ワークショップ



コンセプト

いきいきと働く職員が 市民サービス向上のために、新しい行動を起こせる次世代オフィス

「幸せな未来を描く」 京都工芸繊維大学 仲隆介 教授

今、日本全体で自治体の働き方改革が進められています。多様に、そして急激に変化した社会にふさわしい、新しい市民サービスを考え実行しなければなりません。また、街の魅力をさらに向上させないと、人は街を出ていきかねない時代です。これらの要求水準の高い難題を解かなければならないのですが、これまでの働き方ではこの難題は解けません。個々の能力に頼るこれまでのやり方に加えて、みんなで試行錯誤しながら知恵を絞る働き方を、自ら考え学ぶ必要があります。知恵を絞る仕事は大変です。解決方法は分からず、やるべき作業も明確ではなく、時間をかければできる仕事ではありません。職員がモチベーションを高く持ち続けないと成果が出せません。難関大学の学生は、地頭の良さよりも勉強の

仕方がうまいように、実は、成果は「働き方」で大半が決まります。そして、「働き方」は執務環境に大きく影響を受けます。つまり、市民サービスのクオリティを上げ、街の魅力を向上させるためには、新しい時代にあった働き方に変えなければならないのです。そして、そのためにはその新しい働き方にあった執務環境が不可欠です。

近江八幡市役所は、新しい働き方とそれをサポートする執務環境を模索する試みを始めています。これがうまくいかないと、近江八幡市は幸せな未来を描けません。市民の皆様のご理解をお願いします。



仲教授とゼミの学生(岡田さんは前列右)

市内在住の大学生がプロジェクトを引っ張ってくれました

学生リーダー 岡田 明日香さん
(京都工芸繊維大学4年生 桐原学区在住)

仲教授から「近江八幡市の働き方改革・オフィス改革ワークショップを大学生主導で進める」という話を聞いたとき、「生まれ育った地元である近江八幡の力になりたい」という想いと、「学生の中では誰よりも近江八幡を知っている」という自信から、リーダーに立候補しました。

今後実施するオフィス改革・働き方改革や、新庁舎整備とともに、職員の皆さんがより働きやすくなることを期待しています。今の近江八幡もちろん好きですが、オフィス改革、新庁舎整備で起こる職員の変化が、近江八幡の魅力の維持と発展、新しい取り組みの実現につながると考えています。このプロジェクトで悩むこともありましたが、大学の授業だけでは関わることのなかった人たちと意見交換をしたり、一緒に考えたりしたことは、私にとって貴重な経験になりました。



ワークショップは司会や進行など、大学生主導で進めました。

他自治体の取り組み事例もご覧ください。



愛媛県西予市



東京都

意識・働き方変革プロジェクトの取り組み